

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑫【自分と地域社会】 自然災害が、暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。	総合的な学習の時間

【題材】被災地支援ボランティア活動

【対象】3年生生徒81名

【実践の概要・詳細】

2年前、現在の3年生が1年生のときに、被災地支援ボランティア活動として山田町のJR山田線線路敷地内及び線路脇側溝で瓦礫の片付け及び側溝の泥上げ作業を行った。また、そのときの印象を元にして美術の時間に復興の願いを込めて「復興ポスター」を制作した。



【右上】  
【右中】  
1年生のときに訪問した山田町での作業の様子  
  
【右下】  
【左】  
制作した復興ポスター



3年生になり、修学旅行での合唱の発表や体育祭での南中ソーラン（南城中学校のよさこいソーラン）の発表、3回の講話、地域の老人ホームへの訪問活動、復興ポスターを元にデザインしたうちわの製作を経て、6月30日に釜石市に向かい、特別養護老人ホームアミーガはまゆり、小川地区サポートセンター、小佐野町・桜木町の仮設団地を訪問し、各施設の利用者及び地域の方との交流会を実施した。また、山田町でボランティアをした場所を見学し、復興の状況について説明を受けた。そして、花巻市中学校総合文化祭及び岩手県中学校総合文化祭では、これまでの活動で学んだことについて、合唱と詩の群読を交えて発表した。

【右2枚】  
地域の老人ホームでの訪問活動の様子



### 3学年 校外学習計画(被災地支援ボランティア活動)

#### 1 目的

- (1) ボランティアへの理解を深め、その重要性を理解する。  
(関連…ボランティア教育運営計画1目標(1))
- (2) ボランティア活動を通し、地域や被災地のために進んで貢献しようとする態度を高める。  
(関連…ボランティア教育運営計画1目標(3))
- (3) ふだんの学校生活・家庭生活の中ではできない活動に取り組みせ、知識や見聞を広げる。
- (4) 集団行動を通して、集団の規律を向上する。

#### 2 期日

平成26年 6月30日(月) ※雨天でもよほどの悪天候でない限り実施

#### 3 行き先

- ・釜石市小佐野町3-9-50 特別養護老人ホームアミーガはまゆり 1組  
及び隣接の釜石市小佐野町仮設団地59戸(旧小佐野中学校敷地内)
- ・釜石市桜木町1-1 小川地区サポートセンター 2組  
及び隣接の釜石市桜木町仮設団地113戸(旧釜石市市民体育館跡地内)
- ・下閉伊郡山田町八幡町3-20 山田町町立図書館・中央コミュニティセンター  
2階研修室・集会室 (津波浸水区域外)
- ・下閉伊郡山田町山田第10地割地内 JR山田線(東日本大震災のため運休中)踏切  
※津波浸水区域

#### 4 活動・ボランティア紹介先

社会福祉法人釜石市社会福祉協議会	生活ご安心センター	担当：佐々木様・三浦様
mail： <a href="mailto:sgc.tsutomu@gmail.com">sgc.tsutomu@gmail.com</a>	電話：0193-22-2310	FAX:0193-22-4650
社会福祉法人山田町社会福祉協議会	社協復興支え愛センター	担当：阿部様・佐藤様
mail： <a href="mailto:h-abe@yamada-shakyo.or.jp">h-abe@yamada-shakyo.or.jp</a>	電話：0193-77-3262	FAX:0193-77-3261

#### 5 参加生徒及び引率者

- (1) 参加生徒 3学年81名 特別支援の生徒を含む。  
全員参加を原則とし、参加について保護者に説明文書を配布する。特別支援の生徒には家庭連絡もする。
- (2) 引率者 5名(澤田 佐々木(敏) 佐藤 平山 高原)

#### 6 交通手段

大型バス2台借り上げ  
 1号車：3年1組全員+佐々木(敏)・平山  
 2号車：3年2組全員+佐藤・高原  
 乗用車：澤田 現地での生徒輸送(緊急時・トイレ), 昼食運搬など  
 ※ バス座席は、原則として出席番号順またはパートごとに割り当てます。車に酔いやすい人は、担任に申し出てください。

#### 7 経費

所要経費 復興教育推進校委託費及び生徒活動費より支出

#### 8 持ち物・服装

##### 出発時の服装

- ・南城中指定のジャージ上下(長袖長ズボン)またはTシャツ(白無地ワンポイント可)・ハーフパンツ  
・運動靴  
・帽子(白帽子)  
・スクールザック

##### 各自の持ち物

- 内履き  
・雨具(徒歩移動…折りたたみ傘でOK)  
・筆記用具  
・生徒手帳

- 水筒またはスクイズボトル（中は水かお茶。車内や休憩の際にとる。）
- 常備薬（病院などでもらって服用している薬や、車酔いや頭痛・腹痛などのときにいつも飲んでいる内服薬は自分で用意し必要に応じて服用して下さい。学校でもっていく救急バッグには内服薬はありません。現地の病院に行くことになります）

#### 事前健康調査と健康保険証のコピーについて

事前健康調査を行います。また、万一の場合に備えて、修学旅行の際に集めて持って行った生徒の健康保険証のコピーを、今回も持って行きます。詳しくは後ほどお知らせします。

## 9 内容

慰問活動（老人福祉施設の利用者・被災地の仮設住宅の入居者を対象）

講演「その後の山田町の復興の状況とこれから求められるボランティア活動について」

※ 講演の時間内で移動し、一昨年の作業現場を見学

アミーガはまゆり	1組	小川地区サポートセンター	2組
特別養護老人ホーム		仮設住宅団地の集会・サポートセンター	
利用者70名程度（入居100名うち会場まで移動可能50名程度＋デイサービス利用者20名程度）＋隣接仮設から？名 被災者でない方も多数		老人クラブ利用者10名程度＋隣接仮設から？名 被災者	
屋内（のぼり旗は×）		晴天屋外 雨天屋内（のぼり旗は×）	
地域交流ホール巾12.6m奥行き3.6m 30cmの高さのステージあり巾5.4m奥行き3.6m		集会室巾7.2m奥行き3.6m 屋外サポートセンター前草地 巾30m奥行き15m直角三角形	

## 10 日程

5：30 当日雨天の場合の実施判断

→よほどの悪天候で実施できない場合のみ、5：40から学級電話連絡網・まち comi メールでお知らせする。

7：45 登校・集合

7：50 出発式

8：00 乗車・出発

（途中トイレ休憩1カ所）

※車内で合唱練習

10：00 1号車 アミーガはまゆり着 会場準備とうちわ・ちらし配布

2号車 小川地区サポートセンター着 会場準備とうちわ・ちらし配布

10：30 交流会開始

11：30 交流会終了・後始末

11：40 アミーガはまゆり・小川地区サポートセンター発

12：20 山田町中央コミュニティセンター着

12：30～ 昼食・休憩

13：20～ 講演・研修

14：20～ お礼の合唱（学年で1曲）

14：30 山田町中央コミュニティセンター発

（途中トイレ休憩1～2カ所）

17：30 南城中学校到着

17：35 到着式

17：40 解散・下校

## 11 取り組み計画

5月16日（金）4校時総合 全体計画の説明・講話のお礼について

5月19日（月）4校時総合 講話 菅原先生から・お礼の合唱・感想記録

5月20日（火）2校時総合～3校時道徳 講話 朝倉先生から・お礼の合唱・感想記録

5月22日（木）5・6校時総合 講演 三陸ボランティアダイバーズ代表佐藤さんから  
・お礼の合唱・感想記録

5月23日（金）学年朝会 スローガンの提案

- 5月28日(水) 6校時総合 作業分担・メンバー選出  
 ・ソーラン練習(選抜ソーランメンバー)  
 ・うちわ作成作業(選抜ソーランメンバー以外)  
 ・合唱練習(全員)  
 ・交流会の次第・進行の打合せ(学年執行部)
- 6月 2日(月) 4校時総合 老人福祉施設訪問準備・練習
- 6月 3日(火) 5～6校時総合 2組 老人福祉施設訪問(合唱の発表・慰問)
- 6月 9日(月) 6校時総合 老人福祉施設訪問準備・練習
- 6月10日(火) 5～6校時総合 1組 老人福祉施設訪問(合唱の発表・慰問)
- 6月20日(金) 6校時総合 1・2組 交流会準備(合唱・ソーラン練習, うちわ制作)
- 6月27日(金) 6校時総合 1・2組 交流会準備(合唱・ソーラン練習, うちわ制作)
- 6月30日(月) 1～6校時総合 ボランティア活動当日
- 7月 1日(火) 1校時総合 個人のまとめ(感想記入)
- 7月 2日(水) 5・6校時総合 1・2組 中間まとめ資料(南中祭展示資料)の作成  
 表紙をつける 中間まとめのページを書く
- 7月 4日(金) 学年朝会 スローガン・取り組みの総括
- 7月 7日(月) 5校時総合 中間まとめ発表会 1・2組より代表 3名

【左上】釜石市の仮設団地への訪問 【右上】釜石市の特別養護老人ホームでの交流会  
 【下2枚】1年生のときに作業した場所(山田町)を再度訪れたときのようす



## 12 成果と課題

- (1) 高齢者との交流を通して、地域社会において互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感することができた。
- (2) 他の人や地域社会に役立つことを進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感することができた。
- (3) 苦しみや悲しみに包まれている人々を支援している人に感謝し、共に協力する大切さを実感することができた。
- (4) 今後、学校組織として力を発揮し、学校と家庭・地域が一体となって取り組んでいくことが必要であることを実感した。